

山のかた話 消防団勤続50年の快挙

前号でもお伝えしましたが、今年1月の小石川消防団始式にて、高柳消防団長、第3分団 徳世部長、第4分団 渋谷部長の3名に、50年勤続に対する永年勤続功労賞の表彰がありました。重責と激務の中、団員を支えたご家族に対する感謝状の贈呈にも感動を覚えました。

お三方の中で徳世部長は、昨年行われた東京都消防操法大会に向けた、全団挙げての1年間に及ぶ訓練に毎回のように参加し、注水準備から交通整理、資機材の撤収等々、若い団員と一緒に頑張りました。

「80歳までできそうだよ」と豪語するお元気な部長でしたが、定年に達し、今年6月末日をもってご勇退されました。長い間のご勤続、ご奉仕、本当にご苦労様でした。



消防団には多くの表彰制度があります。その中でも、永年勤続功労賞は、健康を維持し、地域防災のために日夜奉仕する体力、知力、優しさが備わらないと成し得ません。このような大先輩たちに追いつけるよう、現役団員も頑張っていきます。

第2分団 部長 井上 賢一

素顔の消防団員

File:61



すずき あやな
鈴木 彩永 30歳
R4.5.1入団
国会議員秘書
音羽1在住(音羽七和会)

今回は消防操法大会や救助技術大会でも大活躍の“第4分団のマドンナ”、鈴木団員の登場です。

幼少期にインドネシアで育った私は、小学4年生の時に帰国し、音羽に住み始めました。

私の“はじめてのおつかい”は、その頃に学校の帰国子女クラスの授業で行った、護国寺近くのお煎餅屋さんです。インドネシアでは、日本人の子どもが一人で外出するなど、とても考えられないことでした。

大学生の頃、「出身はどこ?」と友人に聞かれ、無意識に「音羽」と答えたのですが、その時初めて「そうか、私の故郷はここなんだ!」と意識するようになりました。以来、

地域のお祭りやイベントに対し、“遊びに行く人”から“共につくり、一緒に楽しむ人”になりたいと思うようになった私は、音羽青年会に入らせていただき、また、音羽を“安心・安全な故郷に”との思いから消防団にも入団させていただきました。まだまだ未熟な私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。



大塚窪町町会
おおつかくぼまちちょうかい
(第1分団受持区域)

今年7月に75周年を迎えた780世帯からなる大塚窪町町会は、筑波大附属小学校、筑波大学東京キャンパスなど、教育・文化施設が多く、教育の森公園や占春園、窪町東公園や大塚窪町公園など、地域全体が緑に囲まれ、住環境に恵まれています。また、文京スポーツセンターや区立窪町小学校など、災害時に避難所となる施設も有し、さらに災害時給水ステーションも整備されるなど、安全で安心の町へと発展中です。

5年前に宮田防災部長が防災士の資格を取得したことをきっかけに、高齢者を見守る“窪町レスキュー隊”を結成、春の防災セミナーや夏の親子防災訓練を行い、避難所運営訓練などにも積極的に参加しています。

防災コンクールには35年連続出場ですが、優勝経験がないため「次回こそ優勝するぞ!」と、堀内会長は熱く語ります。



#街の笑顔を守りたい

※現役消防団員の方がモデルをしています。

消防団員募集

まずは→ Webサイトで詳細を確認!

小石川消防団への入団希望・お問い合わせは…

小石川消防署 03-3812-0119